

2022年11月27日（日）快晴

日光街道つまみ歩き（その3）

宇都宮—野沢

今回は1泊2日で宇都宮から今市を目指して出発したが、初日の午前中に幸子が躓いて転倒し左手首を骨折したのでそこで中止し、救急病院で応急治療の後タクシーで宇都宮に戻り帰京した。総歩数22134歩。いずれ怪我が全快したら再度挑戦のこととする。

朝6時32分の横須賀線で東京駅に向かい、そこから7時12分発の東北新幹線「やまびこ23号」で8時に宇都宮着、8時15分から歩行を開始した。

宇都宮は慶応4年・明治元年（1868年）から翌年に掛けての戊辰戦争の激戦地の一つで、慶応4年4月19日と23日の宇都宮城の攻防は有名。この戦いで新撰組の土方歳三率いる旧幕府軍別働隊は4月19日に（宇都宮藩を含む）官軍から宇都宮城を奪取したが同月23日には官軍が再びここを攻め落とした（土方は負傷して戦列離脱）。

駅を降りてすぐに奥州道中（街道）を江戸方面に向けて歩き8時35分に宇都宮二荒山神社前を通過、神社の紅葉が美しい。ここは前記宇都宮城攻防戦の舞台の一つである。8時48分に日光街道と奥州街道の追分に至る（写真1）。8時54分桂林寺前に至る。ここには戊辰戦争で戦死した宇都宮藩士の墓があるようだ。また、この本堂は戊辰戦争時に官軍の宿舎となったが会津藩の急襲で灰燼に帰したと案内書にある。矢張り宇都宮は至る所に戊辰戦争の傷跡がある。

その後日光街道は国道119号線と合流。9時20分日光まであと25kmとの標識がある。10時7分に桜並木に差し掛かる（写真2）。なかなかきれいな道だ。そこを過ぎたところに小さなカフェがあったので15分の休憩のつもりで立ち寄ったがお菓子のモンブランがなかなか出来てこず約40分の休憩となった。ここを出るとすぐに上戸祭の一里塚がある（写真3）が、この辺り一帯は実に紅葉が美しかった（写真4）。その後釜川に架かる弁天橋を渡って少し進んだ場所で事件は起こった。

小生が先頭に立って歩いていると後ろから若い男が叫ぶ声がする。振り返ると幸子が道ばたにうつ伏せに倒れ若い男性が助け起こそうとしている。小生慌てて駆け寄り二人がかりでやっとの思いで幸子を立ち上がらせると唇や顔などが血で濡れている。慌ててこれを拭き取ったが幸子はどうも左手がおかしいという。見ると確かに腫れている。これはすぐ医者連れて行かねばならぬと言うことで、周りを見渡すと目の前の家から出てきた年配の女

性が車を出そうとしている。事情を話して医者 of 所在を聞くとその女性が今帰りがけだが自分の車で近くの医者 to 連れて行ってあげるといふ。時間的に早いほうが良いと思つたので、その言葉に甘えて車で 5 分ほど戻つたところにある医者 to 連れて行ってもらったが今日は日曜日なので休診日だ。ここでこの女性にお帰り頂いてタクシーでも呼ぶ他無いと覚悟したところに、この人はあくまで親切な人で自分は帰宅途中で通りがかりのところに緊急病院があるから乗せていってくれろといふ。申し訳ないので散々辞退をしたが根負けして有り難くその言葉に甘えることとした。しかしその病院（宇都宮済生会救急病院）までは車で 20 分以上も走つたところにあり大変申し訳ないことをしてしまつた。

病院に駆け込んで当直医（専門は整形外科ではない）に診て貰いレントゲンも撮つたところ左手首骨折と診断され、ギブスを作つて貰つてそこからタクシーで宇都宮駅に直行して帰宅した。病院まで乗せてくれた件の女性はどうしてもお礼を受けとらうとせず、名も告げず去つて行つたが、この方にはどんなに感謝しても仕切れるものではない。本当に良い人に巡り会つたと幸子と共に感謝している。明日早朝旧東芝病院（現東京品川病院）で見て貰うこととした。

宇都宮からは午後 3 時頃の新幹線自由席に乗車したが、朝と異なり宇都宮から大宮まで大混雑で座れなかつた。こんなことは幸子にも小生にも初めての経験だつた。自宅に帰ると心配した息子や娘夫婦がすぐに作れる料理などを持って見舞いに駆けつけてくれ、大変心強く思つた次第である。明日から小生がかなり手伝わなくてはならないがどこまで出来るか一寸心配だ。

というわけで幸子が全快するまで暫時遠出はお休みとなる。

（因みに翌 11 月 28 日東京品川病院（旧東芝病院）で診察の結果、右手首骨折で翌日（11 月 29 日）入院して手術、退院は 12 月 1 日と決まつた。

以上



写真1 追分



写真2 日光街道桜並木 (カメラが斜めになっている)



写真3 上戸祭の一里塚 (日本橋から27里)



写真4 上戸祭の紅葉